

78 布教日程

昭和三年 四月 一日

今月からは此の日程通りに活動さして戴こう、日夜同行に親しむ事が無上の幸福である。

定例布教日程

一日	昼夜		
二日	昼夜	寺町一丁目	敬行寺
三日	昼夜		
四日		五条一丁目	紫崎家
五日	昼	中本町四丁目	谷口家
五日		四条橋	万田家
六日		明十町	中村家
七日		平野二丁目	郷堀家
八日	昼	東鉄町四丁目	末森家
九日		曙町三丁目	迫田家
十日		前田今市	光明団
十一日		通町十丁目	田村家
十二日		白川町二丁目	疋田家
十三日		新町十丁目	旭ガラス会
十四日	昼夜		

十五日 昼夜 新町十丁目 加治家

十六日 昼夜

十七日 昼 白川町三丁目 大光楼

十八日 昼 寺町一丁目 敬行寺

十八日 岡田町一丁目 中村家

十九日 昼 通町六丁目 加来家

二十日 一条二丁目 松永家

二十一日 戸畑市 説教所

二十二日 岡田町三丁目 池田家

二十三日 北本町六丁目 菊田家

二十四日 殿町二丁目 安永家

二十五日 六条五丁目 山名家

二十六日 昼夜 門司市外大積 浄光寺

二十七日 昼夜

二十八日 前田旧二号 松本家

二十九日 諏訪町三丁目 砦上家

三十日 東神願寺 知古島家

ほんじ ほうざちゅう しめつちやういた
本寺の法座中はお出張致しません。

昭和三年 四月二日

南無阿弥陀仏、南無阿弥陀仏、今迄に死んでいたらどう成っていたらどうか、考えて見れば生きている事が不思議ではないか。御親は私に生き私は六字に生かされて叫ばずにいられないとは尊いではないか。聞き難い法を聞き 獲難い信を獲さして戴いた事が仕合せではないか。こんな不実の奴が、こんな悪性の奴が、我が身の疲労を忘れて倒れる迄 人様を生かさねば置かないと言う念力は 何処から出て来るのか自分にも判らない。唯々弘誓の強縁の綱に引かれている事が慶びの中の慶びである。どうしたら人様が真剣に成って下さるだろうか、私はまだまだ真剣が足りないぞ。

85 反対者

昭和三年四月八日

南無阿弥陀仏、南無阿弥陀仏。釈尊に提婆が有り、親鸞聖人様に弁円が有った様に、順縁となり逆縁となつて互いに磨き合うのである。二聖に比較しては勿体ない様であるけれども、親や兄であるから 遠慮せずに言えば、泣いて求めた法龍に居眠り半分で聞いた人達が攻撃の弓を引くのは当然である。攻撃の激しいのはその反面から言えば 勢力の盛大な事を意味するのである。その人の立場に立てば私でも攻撃せずにはいられない。私の勢力や名誉や人望が失われる時には心の中で相手を平気で殺し、呪わずにはいられないだろう。而し今は六字に生かされた嬉しさには 悪口を言う暇にお念仏を称えずにはいられない。攻撃をし反対を言つて下さる人を見ても話を聞いても、心の底で合掌し拝まずにはいられない。此の廣大難思の慶心を知らないで、凡夫にそんな事があられるかと、誹謗正法の重罪を侵して迄も、私に鞭をあてて懈怠に流れてはならないぞ、命を投出して法の為に働けよと逆縁を結んでの御催促かとおもえば感謝せずにはいられない。間違ひ者と言われているの立たない消極的を通り越して、相手を憐れむ積極的の心が出て来るのが不思議で堪らない、死んで後行く極楽も有難いが、私は今日一日が極楽である。精神物質天地宇宙が悉く六字に動かされている、六字に計らわれている、尊いではないか、不思議ではないか。

昭和三年四月十日

沢山な同行が確かに聞かして戴いたとか、声なき声に驚かされたとか、機が知れたとか法が判ったとか、珍しい物を見ては信仰の様に心得ていられるが、言葉や他人に腰を掛けている間は、真の如来の生命に触れてはいない。聖教や言葉を通して思慮分別を超越した処まで行かなければ不思議を不思議と味わう事は出来ない。甚難稀有の法であるから、機に受ける処が難中之難である。難あればこそそれを突破した処に真の易行が顕れるのである。大苦の後に大楽あり。苦悩のどん底に投げ付けられた法龍が弘誓の強縁に生かされた嬉しさ。甚深微妙の法を聞き獲た嬉しさ、合掌せずにはいられない、南無阿弥陀仏、南無阿弥陀仏。

87 何故こんなに愛せられるか

昭和三年四月十二日

南無阿弥陀仏、南無阿弥陀仏、何から御礼を言つてよいやら判らない。衣食住の大満足、不実の心の大安心、明かに此の人世が私にとつては極楽である。心身を投じて法話している時は、煩惱の林に遊んで神通を現じさせて戴いている姿である。毒蛇悪龍の法龍が今日一日無事に生かされている事が不思議ではないか、往生の正因を獲させて戴いた事が不思議ではないか。仏願に帰し仏教に生かされ、仏語に順じた事が不思議ではないか、闇より光へと苦悩に泣いた心が希望に満ち、逆境が悉く順境に転ずる事が不思議ではないか。この邪悪奸詐の心を赦して、私一人の幸福と健在とを念じて下さる御同行を菩薩様じやと、私は拜まずにはいられない。仰ぎ見る大空、踏み締めている大地、吸うている空気、飲んでいる水、食べている食物、私一人を愛し生かし育てているのではないか。南無阿弥陀仏、南無阿弥陀仏。

嗚呼この身にさして下さったお母様は善知識！ 観音様の化現である、業流転を続けていた法龍を無明の絆から自由にして下さった大導師である。お母様！ 人を殺す心を持っている私を、何故こんなに人様が愛して下さっているのでしょうか。無縁の慈悲の親に対して法を遇わして下さった両親に対しても、一分一厘の報謝も出来ない私を何故こんなに慈しんで下さ

るのでしようか。思えば思う程罪にも底が知れないが御恩にも底が知れない。

で生かされている事が恵まれているのである。生命の続く限り叫ばずにはいられない。南無阿弥陀仏、南無阿弥陀仏。

96 女子青年会員の写真

昭和三年四月二十二日

南無阿弥陀仏、南無阿弥陀仏、一所に集まって記念の撮影をする事は 余程深い因縁が有つたに違いない。私のまづい法話に耳を傾けて下さる若い女性の信念が延びて行く事を念ぜずにはいられない。前生に兄弟であつたらうか 親子で有つたらうか、美醜好悪を超越して魂の底から愛せずにはいられない。何故こんなに可愛いのか、一人一人が真実の御親に逢う迄は 兄の身は破れても妹達を永遠に生かしてやらなければならぬ。信仰に生きる様に、地上に於ける観音菩薩の化現の様に 逆境の渦巻に微笑んで乗切り得る様に、再び楽土で面会し得る様に念ぜずにはいられない。

97 病氣も言えない

昭和三年四月二十三日

同行方が私の身体を日夜心配して下さって、一寸でも気分が悪いとか、勤行に出ないとか、或は顔が見えないかすると寂しがられるので、その親切なお心に対しても病氣と云うことさえも出来ない。男の同行も 婦人会の方も 女青の方も念力を私一人に注いでいて下さっているのだもの、その御恩に報いる為には 私も私の一念を貫かねば死なれない。それは聖典を作り信仰の書物を著して人様を信仰に生かす事である。